

植樹祭感想

医学部 36番 神林昂宏君

今回の植樹祭は、今年度の中央委員会が発足してから初めて共同で行う行事でした。今年は植樹を行ってきた例年と違い、花を植えるということになり、地域の方々からご指導いただきながら、全員で協力して1本ずつ丁寧に植えていきました。最初は植え方に戸惑う部分もありましたが、地域の方が優しく声を掛けてくださり、また仲間とも協力して植えていったので、私にとってとても思い出深い行事となりました。そして、花を植え終わった後には、バーベキューが行われ、先生方や友達といういろいろな会話をしながら疲れを癒すことができました。

中央委員会の仲間たちとは、出会ってまだ3週間ほどでしたが、特にお互いのことを良く知らない他の寮の人たちとも一緒に活動したことで、植樹祭を通じて親睦を深められたと思います。これからこの中央委員会で活動していく機会はたくさんあると思うので、皆で協力して昭和大学の寮生活をより良いものとしていきたいです。

また、今回の植樹祭を通じて地域に貢献することができ、自分自身とても嬉しかったです。やはり、地域の方々の支えがあるからこそこうして安心し、充実した日々を送れるのだと思います。だから、今後もこの富士吉田市の人々に対する感謝の気持ちを常に忘れず、大学生活を楽しんでいきたいです。



ウェルカムパーティー・新入生歓迎会

今年度は初の試みとして、オリエンテーション最終日4月16日の放課後、富士吉田の教職員及び富士吉田より巣立っていった各学部の上級生が、新入学生の入寮を祝うウェルカムパーティーを催しました。体育館に集合した全学生に、教員、上級生からお祝いと歓迎の言葉が贈られました。

パーティーは立食形式でおこなわれ、学生、教職員らが自由に移動できたおかげで、最初はごこちなさの感じられた学生達の間にも次第に打ち解けた雰囲気が広がりました。外は季節外れの雪模様で厳しい寒さだったにもかかわらず、途中からは大いに盛り上がり、熱気に包まれるなか、無事閉会しました。

また翌日、翌々日と続く週末の二日間は新歓、すなわち新入生歓迎会がおこなわれましたが、前夜から降り続いた雪により、校舎周辺は春の雪景色となりました。足下の悪い中を上級生が東京・横浜より来校し、七分咲きの桜に積もる雪に驚きの声をあげながら、新入学生との懇親を深めていました。

編集委員 高田中成



入寮風景

今年度は、例年より少し遅く、4月12日(月)に入学・入寮となりました。当日は朝から小雨が降るあいにくの空模様で、入学式を終えて明治神宮会館よりバスで移動してきた学生たちは、降りた途端、あまりの寒さに身を震わせていました。入寮式は、移動するバスの遅れ等から開始が



わずかに遅れましたが、式自体は粛々と進み、恙なく終了しました。身の引き締まる決意の表情もそのままに、各学生は各々の寮に移動。入寮手続きをおこない、約8ヶ月に及ぶ寮での集団生活が始まりました。

編集委員 高田中成

公開講座

今年度の昭和大学公開講座が富士吉田校舎を会場として5月29日に開催されました。「暮らしと健康」にかかわるテーマを掲げ、これまでに25回を重ねてきました。平成3年からですので、今年で20年近く続いてきたこととなります。最近には年に二回、春と秋に開催されており、多くの富士吉田の市民の方々にご参加くださっています。



先日の公開講座では二つのテーマについてお話がありました。一つは「易しい脳の構造と身近な病気の話」という題で、昭和大学医学部第二解剖学教授の大塚成人先生にご講演をいただきました。その後、二つめのテーマとして「スパイスと薬草のホットな関係～食品と医薬品の意外な接点～」と題して、昭和大学薬用植物園准教授の平井康昭先生にお話しいただきました。

両講演とも多くの聴衆を集めました。興味深い写真や実際にあった話に加え、植物の実の实物に触れる機会もありました。最後に、薬用植物園を専門家の説明を受けながら見学しました。「とても分かりやすかった」、「大変良かった」との声が多数寄せられ、好評のうちに終了しました。

化学担当 山本雅人

編集後記

日本全国で猛威をふるい各地に爪痕を残した長い梅雨も明け、遂に夏本番となりました。さて、今回『白樺・百合』は初回発刊から節目となる第10号の発刊へのごぞ着けました。今号は学生入学・入寮から6月末の寮祭までイベントが盛り沢山で、記事の題材に苦勞することはありませんでした。

富士吉田校舎では学生の前期試験も終わり、いよいよ学生は待ち望んだ夏期休暇に入りますが、帰寮後にはすぐ初年次体験実習が待ち構えております。次号では、この初年次体験実習や夏期ワークショップ、学生の国際交流などの記事を取り上げ、10月発刊を予定しております。ご期待ください。

編集委員 高田中成



白樺百合

昭和大学だより
第10号 2010.7.26 発行

発行責任者 富士吉田教育部長 片桐 敬
編集責任者 富士吉田教育部教授 倉田 知光
〒403-0005 山梨県富士吉田市上吉田 4562
TEL 0555-22-4403



写真部 牧輪あやの 撮影

初年次教育の食育に携わって

昭和大学富士吉田校舎調理師係長 大森茂雄



富士山麓のこの富士吉田の地に、昭和大学が全寮制による初年次教育をおこなうようになって早40年が経過しました。全寮制という学習環境は当然として、同時に衣食住の全てが問題となります。特に、住環境における食事は学生生活の中で大きなウェイトを占めており、朝昼晩の食堂での三食は学生の共同生活を送る中での憩いの場となっております。また、食堂は食育の場、将来の医療人を育成する場でもあり、様々な食材を用いた食事を提供することで学生の好き嫌いを少しでも無くしてもらうよう努めることに、提供する側としても大いにやり甲斐を感じております。

この職に就いて既に30年余りになりますが、時代とともに学生の雰囲気も変化し、また年度ごとに各々の特色があるため、毎年4月に新入生が入寮するたび、気持ちを新たにすることができます。食事を提供する際は学生にも積極的に声を掛け、時間の許す限り雑談などから学生との交流を日々深めております。その上で、学生達がこの自然豊かな素晴らしい環境の中で初年次を有意義に過ごし、東京や横浜のキャンパスへと巣立っていき、たまに「富士吉田の学食は美味しかった」と思い出していただければと願っております。



梅雨の最中で、前日からの雨が心配された富士吉田キャンパスの祭でしたが、6月25日、26日の二日間、例年通り開催されました。準備期間はひと月余りと充分ではありませんが、学生たちは講義終了後の時間をやりくりしながら、夜遅くまで準備に明け暮れていました。それでも、祭が近づくにつれ、あたふたとする学生達の姿を見ると、教職員も心配でたまりません。24日の夕方、正門前に祭のテーマを掲げたゲートが立ち上がったのを見たときには、ほっと胸をなでおろしました。



降り続いた雨も25日にはあがり、真夏のような晴天、気温30度の陽気の中、午前中、予定通りグラウンドでは体育祭が開催されました。約580名の学生達が一丸となり、祭対抗で各種の競技が展開され、熱気を帯びた声援がグラウンド中に響き渡っていました。午後からは模擬店、ダンスなど各種イベント、バザーが行われ、夕方までキャンパス内はたいへんな盛り上がりを見せていました。



二日目、26日はプログラムで「？」になっていたサプライズのイベントに、学生たちなら誰でもわかる芸能人が現れると、歓声もひとときわでした。夜にはキャンプファイヤーと、昭和大学名物となっている打ち上げ花火。夏には幾分早いものの、夜空に色とりどりのたくさんの花が開き、祭の最後を飾ってくれました。見ていた学生達も、自分たちのためだけに次々と打ち上げられる美しい花火に感激し、うっすらと涙を浮かべていました。

宵闇の中、図書館の前にひっそりと咲くオオマツヨイグサも、花火とともに大きな花を咲かせていたのがとても印象的でした。短い祭でしたが、それぞれに青春の良き思い出ができたのではないのでしょうか。

生物学担当 長谷川真紀子(寮管理委員長)



体育祭

富士吉田キャンパス最大のイベントである祭の幕開けとなるのが体育祭。今年は、赤松・百合寮チーム対白樺・すみれ寮チームの全8チームにより行われました。毎年、学生全員がお揃いのTシャツを着て行われる体育祭ですが、今年のTシャツの背中には、本学の建学の精神である「至誠一貫」の文字が書かれ、一人一人が本学の学生としての自覚を背負って熱い戦いを繰り広げました。

第1種目は、異なる四つの競走(ムカデ、二人三脚、出前、騎馬パン食い)を組み合わせた障害物競走が行われました。最初のム



カデでは、途中でヒモが切れるハプニングが起こりましたが、みんなで声を掛け合いながら、一生懸命がんばっていました。また、最後の騎馬を組んでのパン食いでは、吊り下げられたパンをなかなかくわえることができず、悪戦苦闘する場面もみられ、非常に盛り上がりました。

第2種目の騎馬戦は、正対する騎馬と騎馬が一对一で戦う真向勝負。男女ともに意地とプライドをかけた「やるか! やられるか!」の戦いはとても見応えがありました。また、どのチームも戦う前に円陣を組み、お互いの士気を高めあう姿や、勝利のたびに巻き起こるウェーブは、若さとパワーに溢れるとてもすばらしい光景でした。

体育学担当 弓桁亮介



「総合サイエンス臨床実習入門」

昭和大学は医学部、歯学部、薬学部、保健医療学部(看護学科、理学療法学科、作業療法学科)の4学部6学科から成る医系総合大学です。1年次の富士吉田での全寮制教育においては、寮での共同生活はもとより、入学直後から始まる学部混成の総合サイエンス臨床実習入門や初年次体験実習などを通して、チーム医療の基礎を育成しております。

このうち総合サイエンス臨床実習入門では、まず臨床検査と糖尿病などの疾病について説明を受け、生体サンプルを安全に取り扱うために必要なバイオハザードの基礎について学習します。続いて学部を混成した寮の4人部屋のチームで、光学顕微鏡を用いた血球細胞の観察(生物系分野)、ヒト赤血球膜を用いた浸透圧の実験(物理系分野)、生体エネルギーに関わる血糖の定量法・尿のpHとその成分の測定・分子模型を用いたグルコース構造の作成(化学系分野)、コンピュータを用いた血糖の検量線の作成とグルコース分子立体構造のグラフィック表示(情報系分野)の各実習を行います。これら基礎的な臨床実習を入学直後に経験す

ることを通して、医療系におけるサイエンスの重要性や医療がチームで成り立っていることを実感することにより、今後学ばなければならない膨大な医療系科目に対するモチベーションとチームワークを育んでいます。

我々は昭和大学スピリッツである「至誠一貫」と共に、「チーム医療」の第一歩としての「総合サイエンス臨床実習入門」を通して4学部の新入生をサポートしています。

化学担当 稲垣昌博



第3回 昭和大学富士吉田教育部 オリエンテーリング大会を終えて

富士吉田教育部の恒例行事となったオリエンテーリング大会が、5月15日に鳴沢村の「緑の休暇村」で開催されました。この大会は学生間あるいは学生と指導担任との親睦を深めることを目的としていますが、本年はインフルエンザ流行のために残念ながら60名余の学生が欠席となりました。しかし、参加者は元気よく順次スタートしていききました。

前半組の結果は、Aコース、Bコースともに萩原講師チームが優勝を遂げるとともに、後半組では中山教授チームがアベック優勝を果たしました。優勝チームの指導担任は学生たちを労うのがならわし。両先生ともレース後の差し入れが大変だったことでしょう。トップは61分程度でゴールしていますが、一方、もっとも

遅いチームは2時間40分ほどかかっており、のんびりと富士山麓の景色を楽しみながら親睦を深められたのではないのでしょうか。

事故などもなく、無事に参加者全員が仲良くゴールインしてくれました。学生の皆さん、お疲れ様でした。また大会をサポートしてくださいました教職員の皆様、ありがとうございました。

体育学担当 堀川浩之



平成22年度 前期オープンキャンパス

新入生たちも富士吉田キャンパスでの寮生活にすっかり慣れ、体育祭と祭とで学内が熱気に包まれる6月26日、今年度前期のオープンキャンパスが開催されました。来年度の受験生106名に加え、多数のご父母を含む総勢215名の皆様が、昭和大学の学風に肌でふれる機会にご参加くださいました。

キャンパス到着後は自由行動からスタート。講義棟5号館には今春の受験を突破した1年生たちによる「入試突破体験相談コーナー」が設けられ、来春の悲願成就を願って、真剣な質疑応答がくりひろげられました。先輩として、そして後輩として、来るべき春の日にここで再開する姿が脳裏に浮かぶひとこまです。

正午をまわると、おもしろい祭はいつそうの活気を帯び、学生たちが腕をふるう模擬店の数々を訪れては舌鼓を打つご参加の皆様の笑顔が、キャンパスのそこかしこを飾ります。また、ご希望の方々には在校生とともに学食を味わう「昼食体験」も用意され、ご試食の感想には「おいしかった」、「ボリューム満点」、「栄養バランスのとれた良い食事」など、ご満足いただけたことを実感できる言葉が並びました。

昼食後、第二講堂では歯学部1年生・濱田真実さんによる学生代表からのメッセージと片桐敬富士吉田教育部長による大学紹介がおこなわ

れ、満場を埋めた皆様は「至誠一貫」を掲げる昭和大学の精神にふれるべく、熱心に耳を傾けていらっしゃいました。

続いては、講義棟、少人数教育の場であるSGSセンター、ならびに男子・女子各寮の見学会。案内を務めるのも学生たち。日々を過ごす案内の紹介には、いつそうの熱意が感じられました。

メニューの最後は受験生と在校生とのフリートーク。帰路につくバスの発車時刻まで、会場には和やかな歓談の音が響いていました。

ご参加くださった皆様は、昭和大学の空気感に抱かれて、富士の裾野のキャンパスをあとにされました。オープンキャンパスでの出会いが昭和大学との長いお付き合いのスタートとなりますことを心より願っております。

コミュニケーション担当 田中周一

